

データでみる福島再生

最近の動き

○特定復興再生拠点区域の進捗状況

- ・3月末時点で、以下の工事を新規に契約しました。
 - 令和元年度大熊町特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去及び除染等工事（その3）
 - 令和元年度浪江町特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去及び除染等工事（その3）
 - 令和元年度飯舘村特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去及び除染等工事（その3）

○福島県内の除染仮置場等の状況

- ・仮置場等総数1,345箇所のうち、637箇所除去土壌等を保管中、708箇所搬出が完了し、411箇所の仮置場で原状回復が完了しました。

○中間貯蔵施設の整備の現状

- ・3月27日、大熊④工区の土壌貯蔵施設への貯蔵を開始しました。これにより、整備していた全ての受入・分別施設（9施設）と土壌貯蔵施設（8工区）が運転を開始したことになります。
- ・3月30日、双葉町仮設灰処理施設（その1）で発生したばいじんを、双葉1工区の廃棄物貯蔵施設に搬入し、貯蔵を開始しました。これにより、中間貯蔵施設における除去土壌と廃棄物の処理・貯蔵の全工程で運転を開始したことになります。
- ・除去土壌の分別処理を行い、3月末時点で、約348万 m^3 （輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。

○中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送の進捗状況

- ・2019年度は中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送を約405.9万 m^3 行いました。輸送開始(2015年3月)からの累積は約668.3万 m^3 （全体の約48%）です。

○中間貯蔵施設用地の状況

- ・用地取得については、3月末時点で契約者数1,759人、面積約1,164haについて契約しております。

○国直轄による対策地域内廃棄物等の処理進捗状況

- ・災害廃棄物等の仮置場への搬入については、2月末時点で、約259万トンの搬入を完了しました（うち、約46万トンが焼却処理済、約161万トンが再生利用済）。
- ・被災家屋等について、2月末時点で、約16,600件の解体撤去申請を受付済みであり、約14,400件を解体撤去済みです。

○ **国直轄による対策地域内における仮設焼却施設の設置状況**

- ・ 2月末時点で、約111万トン（除染廃棄物を含む）を各仮設焼却施設で処理しました。

○ **特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況**

- ・ 3月末時点で、117,671袋を特定廃棄物埋立処分施設へ搬入しました。

○ **放射線に関するリスクコミュニケーション活動状況**

- ・ 環境再生プラザで4件、その他で4件の活動を実施しました。